

令和4年2月13日

令和4年度 東京藝術大学大学院美術研究科（修士課程・第2期）
入学者選抜試験 陶芸（陶・磁・ガラス造形）

注意事項

- ・ 試験が終わるまで、携帯電話等の通信機器は電源を切って配布された封筒に入れること。
- ・ 写真撮影等、一切の記録を禁止します。
- ・ トイレに行く際は必ず受験票を携帯すること。
- ・ 与えられた問題用紙、草案用紙等は持ち帰らないこと。

令和4年2月13日

令和4年度 東京藝術大学大学院美術研究科（修士課程・第2期）
入学者選抜試験 陶芸（陶・磁・ガラス造形）

本日の試験は下記の時間割で行います。

■ 筆答試験 / 試験場（陶芸研究室）

10:00 ～ 11:15

◇ 昼食 / 試験場（陶芸研究室）

11:20 ～ 12:25

■ 実技試験 / 試験場（陶芸研究室）

12:30 ～ 14:30

令和4年2月13日

令和4年度 東京藝術大学大学院美術研究科（修士課程・第2期）
入学者選抜試験 陶芸（陶・磁・ガラス造形）

筆答試験

（10：00～11：15）

問題 1

以下の文章が説明している語句を解答用紙に答えなさい。

[1] 主に石英からなり二酸化珪素（シリカ）をおよそ97%含んだ塊状の原料である。地球上の地殻層で最も広く存在する物の一つで陶磁器素地、釉薬の主要な原料となる。単体では耐火度が高く軟化温度が1700℃前後のものが多い。種々の溶剤原料を適量配合すると、これよりも低い温度でガラス化する。

[2] 石英とセリサイトあるいはカオリナイトなどの粘土鉱物を主成分とし陶磁器原料に使用される岩石で、焼成により単体でも磁器化する。セリサイトの多いものは耐火度が低くなりカオリナイトが混在し石英の量が多い物は高くなる。主な産地に天草（熊本県天草市）、泉山（佐賀県有田町）出石（兵庫県出石町）がある。

[3] 陶磁器用着色顔料の代表的なもので、還元焼成では釉に溶けて青く発色し、酸化焼成ではやや黒味を帯びて発色する。酸化コバルトを主成分とする天然の鉱物で、少量のマンガン・鉄分を含み、その含有量により青の発色が変化する。現在では天然の物が手に入りにくいいため、合成の物が広く普及している。

[4] 主原料に植物の灰を使い粘土・長石などを調合した高火度釉。松・檜・柞・栗など植物の灰には多量のカルシウム分と少量のアルカリ分が含まれており粘土類の多い原料や長石を調合して焼成すると溶けてガラス質の高火度釉となる。また東洋の陶磁器の基本となる釉であり、東洋の施釉陶磁器はこの釉を母体に青磁・黒釉・黄瀬戸など様々に発展していった。

[5] 装飾技法のひとつで、収縮率を合わせた数種類の粘土や顔料を加えた色粘土を使い、生地表面に線や面を彫ったり印花を施したりして出来た溝に異なる粘土や泥を埋め込み、生乾きの時に余分な粘土を掻き落として仕上げた技法。韓国の高麗青磁や三島曆手などが有名。

[6] 二つ以上の異なる色の粘土を交互に重ね合わせ、あるいは練り合わせて文様を作る技法。タタラに成形した色土を重ね合わせ空気が入らないように注意して制作する。タタラの厚さや組み合わせ方、練り方などの違いで縞文様、市松文様、木目文様などの複雑な文様表現ができる。成形型を使ったものが一般的ではあるがロクロでの成形も行われる。

[7] 粘土などや鉱物の粒度や比重による水中での沈澱速度の差を利用して粒度分けをする方法。また木灰や土灰などの灰を水に浸し攪拌した後に一定時間静置し上澄み液（灰汁）をきることを繰り返して可溶性アルカリ塩類を取り除くこと。灰汁抜きが不十分だと釉切れの原因になったり釉の発色が悪くなったりする。同時に段階的に篩に通し雑物を取り除く。

[8] 中国、明時代に始まる透光性のある文様が施された磁器、またはその技法。磁器素地に透かし彫りをし、その空間に透明の釉を充填して焼成すると透かし彫り部分の釉薬が熔融して埋められる。この部分に光を当てると文様が透けて見えることからこの名で呼ばれる。

[9] 山の斜面を利用し、地下をトンネル状に掘り貫き築いた窯をいう。古墳時代中期に朝鮮半島から伝わった窯の構造で須恵器、灰釉陶器、中世陶器の焼成に使われた。地上式の登り窯に対して地下式・半地下式の構造で、焚き口・燃焼室・焼成室・煙道の各部からなる。平安時代になると燃焼室と焼成室の間に分焰柱が設置され窯の熱効率が飛躍的に向上した。

[10] 酸素が不十分の状態での焼成方法のこと。窯の中に発生した一酸化炭素ガスが、素地土や釉中の酸化金属を酸素の割合が少ない状態、あるいは全く含まない状態に変えて、素地土や釉の発色を変化させる。代表的な作用は青磁釉に見られるように鉄が青く発色し、辰砂釉に見られるように銅が赤く発色する。

[11] 中国長江下流域、江蘇省に位置する窯。生活実用品が早くから焼かれた陶器生産地であり、なかでも可塑性の高い紫砂の土を用いた紫泥や、朱泥・梨皮泥の茶器（急須・茶柱）が多く焼かれており日本でも珍重され、常滑窯の急須にも影響を与えた。

[12] 茶懐石において最初に飯椀、汁椀と共に膳にのせて出され、客から見て飯椀と汁椀の向こう側に置かれる器。刺身や膾等が盛り付けられることが多く、盛られた物を食べ終えた後も取り皿として使い最初から最後まで膳の上にあることから、その形や文様に茶会の趣向や季節感を込める器でもある。桃山期には瓢箪型、扇面型、山型、鍵型など様々な形のこの器が考案され多くの優品が生み出された。

問題 2

以下に挙げた語句をそれぞれ説明しなさい。

[1] アーツ・アンド・クラフツ運動

[2] 河井寛次郎

[3] 古染付

問題 3

以下に挙げられた図版の作品について、それぞれ説明しなさい。

田村耕一作『銅彩椿文皿』

[1]

藤本能道作『色絵カワセミ文大皿』

[2]

加藤土師萌作
『色絵金欄手雲雀迎春文飾壺』

[3]

問題 4

やきものの「素材」・「技法」について、自身の考えを400字以内で書きなさい。

実技試験

(12:30～14:30)

与えられた粘土8kg×2を1体ずつ用い、轆轤びきにより
張りのある大壺1つと大皿1つを八角亀板の上に制作しなさい。

注意事項

- * 受験票は受験番号札の横に置きなさい。
- * 別に用意された粘土(1kg)は八角亀板をとめるために使うこと。
- * 与えられた道具のみ使用すること。
- * 高台を削ることを前提に制作し、ひき終えたものは亀板から切り離すこと。
- * ひき終えたものは亀板ごと轆轤の天板からはずし、轆轤の横に置きなさい。